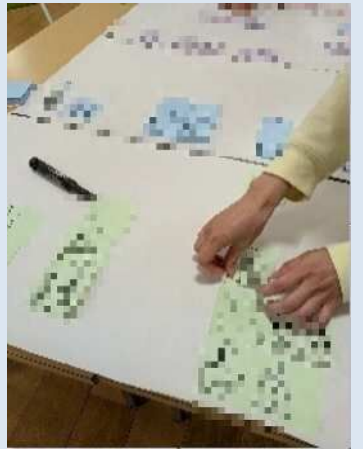
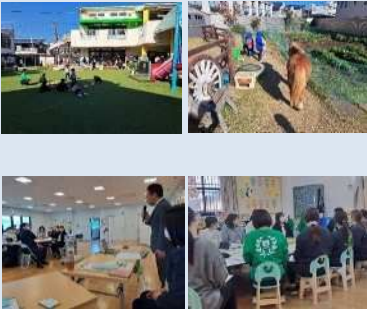


葛飾区公開保育を通じた学び合い等支援事業 事業活動実施報告書

施設名(住所)	熊野幼稚園(東京都葛飾区立石8-44-31)				
実施内容	ECEQ®(公開保育を活用した幼児教育の質向上システム)				
各STEP実施履歴	STEP1	事前訪問	令和7年7月3日(木)	15:00	～ 17:00
	STEP2	事前研修	令和7年9月5日(金)	14:00	～ 16:30
	STEP3	「問い」づくり	令和7年11月5日(水)	14:00	～ 16:30
	STEP4	公開保育	令和7年11月21日(金)	9:00	～ 16:00
	STEP5	事後研修	令和7年11月28日(金)	14:00	～ 16:00
公開保育参加者数	22園 32名 (うち、区内の保育所5園5名、幼稚園4園6名、認定こども園1園1名)				
STEP1・2で確認した自園の良さ・課題	研修の前半では、自園の保育や環境について改めて見つめ直しました。 本園には、田んぼや畑のある園庭、動物とのふれあい、自然豊かな遊び場など、恵まれた環境があります。また、子ども同士の関わりを大切にしながら「やりたい」という思いを叶えようとする保育、教職員同士が温かく支え合う職場風土も大きな強みであることを再確認しました。 一方で、その豊かな環境を十分に活かしていない部分があることや、保育が属人的になっている面、保護者対応や人材確保、設備面での課題なども見えてきました。普段はなかなか言葉にできない思いを共有できたことは、大きな学びとなりました。				
STEP3で完成した「問い」	・子どもたちが落ち着いて遊ぶために工夫できることはどんなことがありますか。配置・おもちゃの種類などでお気づきのことがありましたら教えてください。 ・異年齢との関わりを深めるための声掛けはできていましたか。 ・本日の保育をご覧になって、子どもたちの言葉でのやり取りが広がっていた(広がりそうな)場面での保育者のかかわりはいかがだったでしょうか。 ・友だちに対して自分の思いを、言葉で伝えたり行動に移したり、やり取りが広がるように、あなたの園ではどのようにしていますか。 ・自然物や動植物に興味をもって探求していけるよう、あなたがだったらどのような環境設定やどのようなことをしますか？戸外と室内を繋げる環境設定も教えてください。 ・子どもたちが主体的に遊びや話し合いを進めていけるよう、もっとこうしたらいと思うことは何ですか？ ・制作が深まる素材や廃材、用具にどんなものがありますか？また、そのために必要な工夫がありましたら教えてください。 ・子ども自ら興味を持ち、そのことについて挑戦、探求心を育むために考えられる保育環境や援助を教えてください。 ・相手の思いを受け入れながら遊びを進められるようになるためにあなたの園ではどのような援助や工夫をしていますか？ ・継続した遊びとなるような環境設定や工夫を教えてください。また、遊びを広げるために使える素材などがあれば教えてください。		 		

STEP4で気づいたこと、感じたこと、思ったこと	公開保育では、多くの先生方に参観していただきましたが、子どもたちは普段通り、のびのびと過ごしていました。参観者の先生方が自然体で子どもたちと関わってくださったことに、心より感謝しています。 日頃から大切にしている「子どもをよく見ること」「表情だけでなく心の声を読み取ること」「思いに寄り添いながら学びへとつなげること」が、子どもたちの姿として表れていることを実感できた機会でもありました。 外部の視点からいただいたご意見は、自分たちの保育を見つめ直し、さらに深めていくための大切なヒントとなりました。	
STEP5で気づいたこと、感じたこと、思ったこと	STEP5では、これまでの振り返りをもとに、強みや課題、今後の挑戦について整理し、具体的な行動計画を考えました。 改めて感じたのは、豊かな自然環境や柔軟な保育、子どもたちの声に耳を傾ける姿勢は、今後も大切に守り続けるべき園の財産であるということです。 そのためには、教職員同士が学び合い、対話を重ねながら保育を磨き続けることが欠かせません。環境があることに満足するのではなく、それをどう活かすかを考え続けることの大切さを実感しました。	
ECEQ®全体を通して気づいたこと、感じたこと、思ったこと	今回の研修を通して強く感じたのは、保育のすべては幼児理解から始まるということです。 子どもをよく見て、その思いや心の動きを受け止めることが、問いを生み、保育を深める原動力になります。そして、教職員同士が語り合い、学び合うことで、一人では気づけなかった視点や価値に出会えることも実感しました。 当たり前だと思っていた日々の環境や実践が、実は大きな強みであることに気づけたこと。そして、課題も含めて共有できたこと。その両方が、これからの園づくりにつながっていくと感じています。 今後も、子どもたち一人ひとりの「やりたい」「やってみたい」を大切にしながら、教職員一丸となってより豊かな保育を実践してまいります。	